

摂食・嚥下障害 勉強会

「近年の摂食・嚥下リハビリテーションの動向」

I 摂食・嚥下の概要

II 摂食・嚥下リハビリテーション
(評価と手技)

III 在宅での対応

I 摂食・嚥下の概要

II 摂食・嚥下リハビリテーション
(評価と手技)

III 在宅での対応

嚥下 = swallowing



ちなみに

誤嚥（ゴエン）

声帯を越し異物が気管に侵入してしまう事

誤飲（ゴイン）

食べ物ではないものを

誤って飲み込んでしまう事

摂食・嚥下障害

(Dysphagia)

摂食 → 食物を認知し食塊を形成する

嚥下 → 食塊を口腔から胃まで移送する

〈 原因 〉

- 器質的原因 : 腫瘍 など
- 機能的な原因 : 麻痺、老化 など
- 心理的原因 : ヒステリー など

摂食・嚥下の5期3相

5期（筋収縮）

- 認知期
- 準備期
- 口腔期
- 咽頭期
- 食道期

3相（食塊）

- 口腔相
- 咽頭相
- 食道相

主な筋群

咀嚼筋群

舌筋群

舌骨上下筋群

咽頭収縮筋群

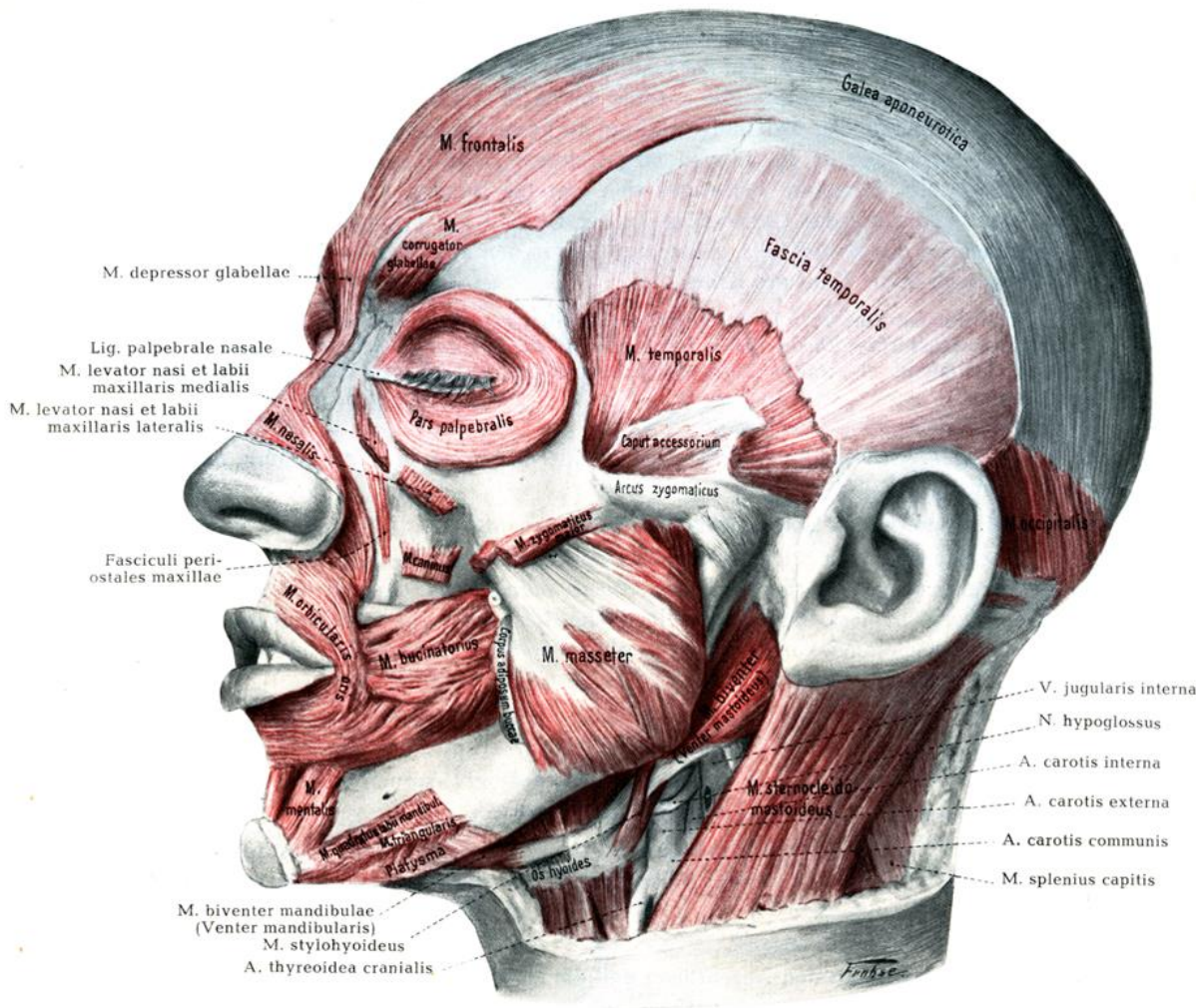


Abb. 516. Kopfmuskeln (IV) und kraniale Zungenbeinmuskeln.

Nach Entfernung des Platysma, der Fascia parotideomasseterica, des oberflächlichen Blattes der Fascia temporalis und eines Teiles ihres tiefen Blattes, der Glandulae parotis und submandibularis. Nach Entfernung der Pars orbitalis des M. orbicularis oculi, des M. risorius und Durchschneidung der Mm. zygomaticus major, triangularis und der Mm. levator nasi et labii maxillaris medialis, lat., des M. zygomaticus minor, des M. quadratus labii mandibularis.

(A. HENKEL praep., FR. KOPSCH phot., FR. FROHSE del.)

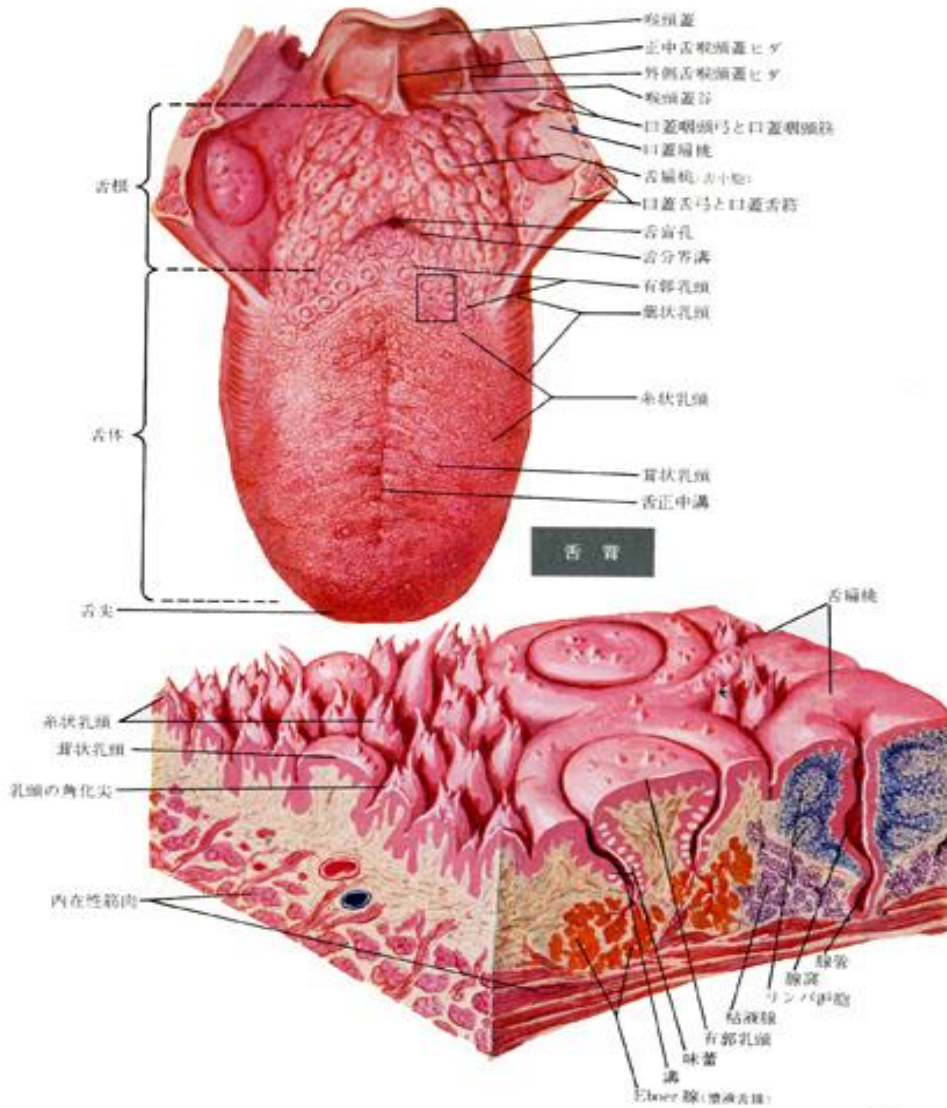
舌筋

内舌筋

- 上縦舌筋
- 下縦舌筋
- 横舌筋
- 垂直舌筋

外舌筋

- オトガイ舌筋
- 舌骨舌筋
- 茎突舌筋
- 口蓋舌筋



神経・筋の損傷 = 歯の欠損



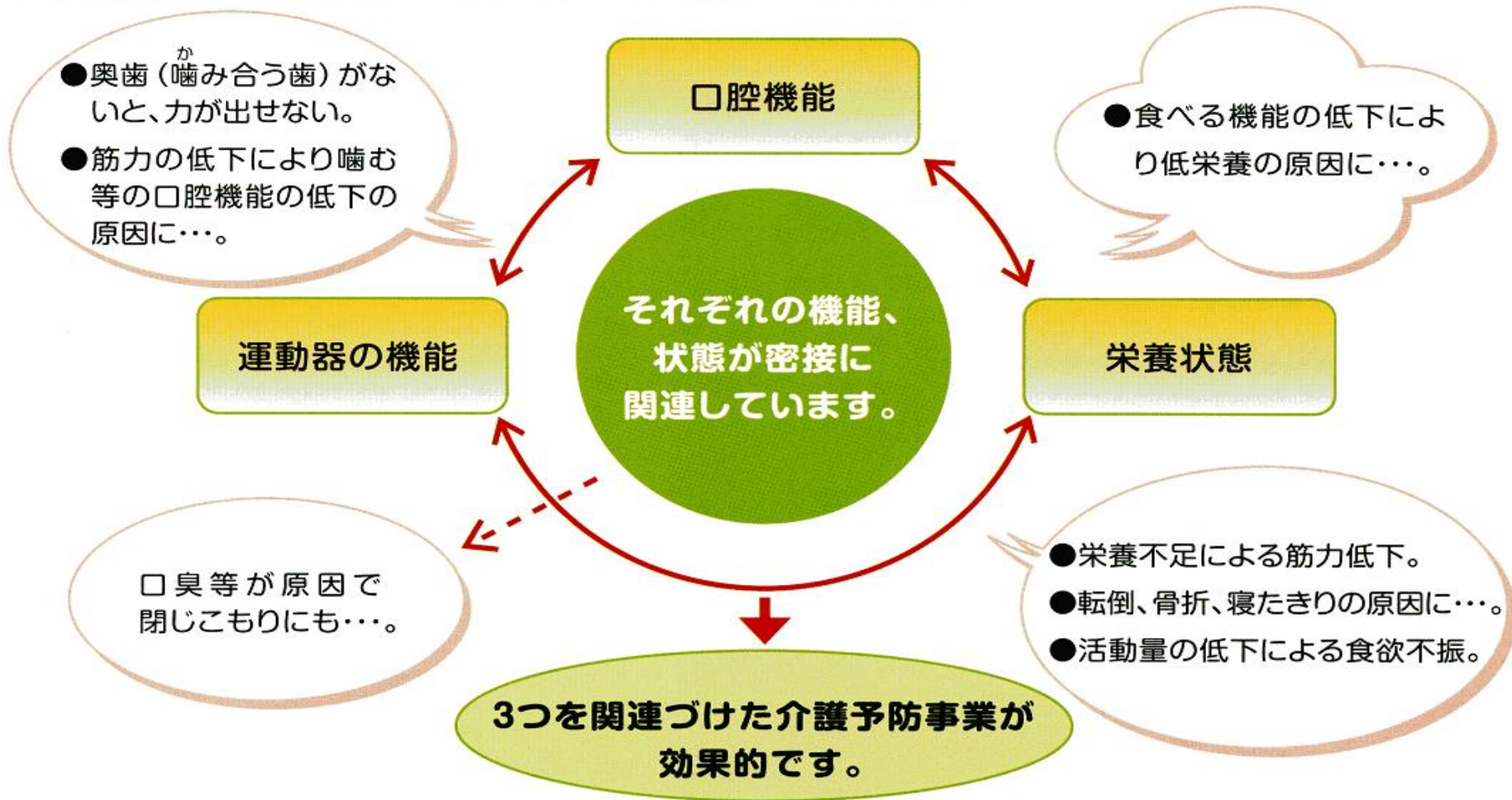
しかし…

口腔内は見えない



口腔機能の向上と栄養と運動の関連

口腔機能、栄養、運動器は、それぞれが深く関わっています。



「食事」



「生活の質」

I 摂食・嚥下の概要

II 摂食・嚥下リハビリテーション
(評価と手技)

III 在宅での対応



[やみくも ヤミクモ]

闇雲

[yami kumo]

[意味]

暗闇の中で雲をつかむようなこと。
漠然とした中で当てのない行動をするさま。
前後の思慮なく行うさま。むやみやたら。
江戸時代より使われ始める。

一般的な評価方法

すぐに出来る評価

- 反復唾液のみテスト (Repetitive Saliva Swallowing Test : RSST)
- 改訂水飲みテスト (Modified Water Swallow Test : MWST)
- 水飲みテスト
- フードテスト
- 標準 ディサースリア検査 (Assessment of Motor Speech dysarthria : AMSD)
などなど

すぐに出来ない評価

- 内視鏡嚥下機能検査 (VideoEndoscopic examination of swallowing : VE)
- 嚥下造影 (VideoFluoroscopic examination of swallowing : VF)

一般的な総合評価方法

分類	解説	対応法	
誤嚥なし	⑦ 正常範囲	大きな問題はなく普通の食事を食べられる。	必要なし
	⑥ 軽度問題	誤嚥はないが、のどの残留感や食べにくいものなどがある。	間接訓練、食事の工夫、義歯調整などが必要なこともある。
	⑤ 口腔問題	誤嚥はないが、咀嚼や送り込みなど口の中の問題がある。	食事中的見守り、間接訓練、食べやすい食物の検討などが必要。
誤嚥あり	④ 機会誤嚥	時々誤嚥する、または時々湿性嘔声がある。	口腔内の問題への対応に加え、咽頭問題の評価、咀嚼の影響の検討が必要。一般医療機関や在宅で直接訓練が可能。
	③ 水分誤嚥	水分は誤嚥するが、とろみをつけた水分やペースト状の食物は安全に嚥下できる。	上記の対応法に加え、水分摂取の際に間欠経管栄養法などチューブが必要な場合もある。医師や専門家がいた施設で直接訓練が可能。
	② 食物誤嚥	どのような工夫をしても誤嚥があるが、呼吸状態は安定している。	経口摂取は不可能で経管栄養が基本。専門医療機関以外での直接訓練は困難。
	① 唾液誤嚥	唾液を含めすべての食物を誤嚥し、常にゼロゼロ痰がらみ音が出ている。	持続的な経管栄養法が必要。直接訓練は不可能。

摂食・嚥下障害の臨床的重症度分類(才藤栄一他,1999)

I 重症 経口不可	Gr.1	嚥下困難または不能 嚥下訓練適応なし
	Gr.2	基礎的嚥下訓練のみの適応あり
	Gr.3	条件が整えば誤嚥は減り、摂食訓練が可能
II 中等症 経口と代替栄養	Gr.4	楽しみとしての摂食は可能
	Gr.5	一部(1-2食)経口摂取が可能
	Gr.6	3食経口摂取が可能だが代替栄養が必要
III 軽症 経口のみ	Gr.7	嚥下食で3食とも経口摂取可能
	Gr.8	特別嚥下しにくい食品を除き 3食経口摂取可能
	Gr.9	常食の経口摂取可能 臨床的観察と指導を要する
IV 正常	Gr.10	正常の摂食・嚥下能力

一般的な手技

間接訓練（食品を使わない）

- 頭部挙上訓練（シャキア訓練）
 - 構音訓練
 - 舌機能訓練
 - 嚥下反射惹起訓練
 - 口腔ケア
- ・・・など

直接訓練（食品を使う）

- 環境調整
- 食品調整

構音訓練



(Lee Silverman Voice Treatment)

もともとはパーキンソン病者への言語訓練であった。
その後、言語機能の他口腔機能の改善も報告される。
エビデンスレベル: 1

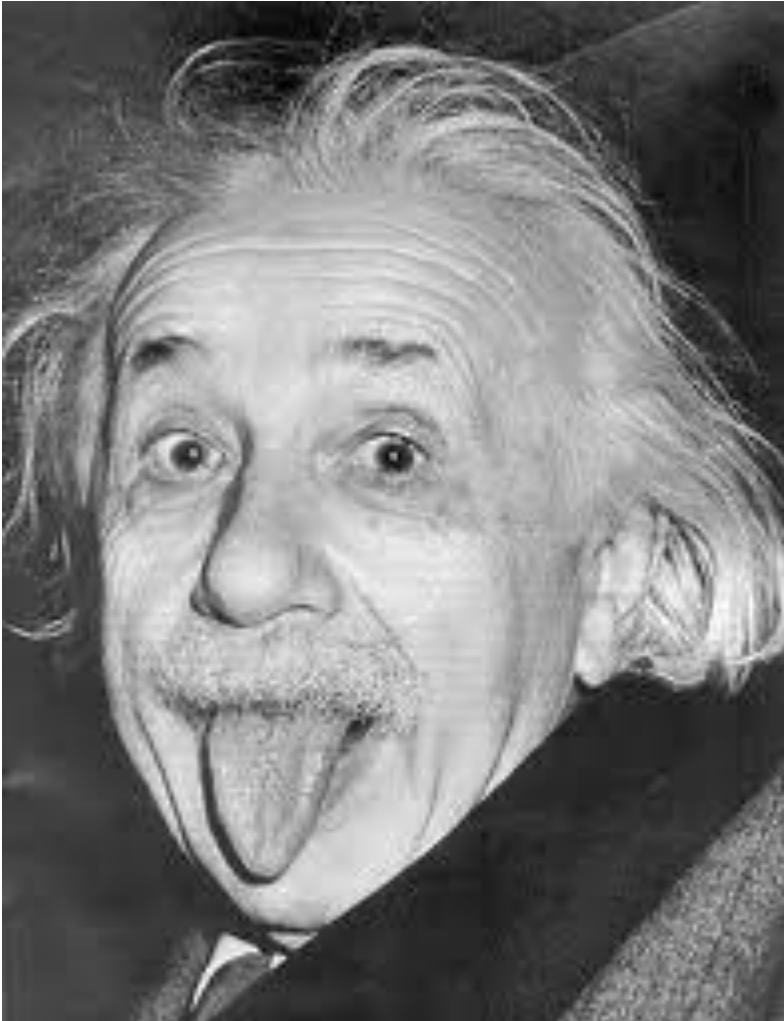


口腔ケア



- 誤嚥性肺炎の予防
- 口腔内状況を整える
- う蝕、歯周病の予防

舌の機能訓練



構音機能

食塊形成機能

アンカー機能

嚥下圧の強化機能

I 摂食・嚥下の概要

II 摂食・嚥下リハビリテーション
(評価と手技)

III 在宅での対応

考えられる

在宅での対応

- 機能に合った対応食
(嚥下食)
- 栄養補助食との併用
- 適切な助言と指導

嚥下食とは

2010年日本摂食・嚥下リハビリテーション学会

嚥下食（略称）＝ 嚥下調整食

Modified Diet for Dysphagic persons
摂食・嚥下障害患者に対する食品の名称

嚥下食の基準

コード	名称	内容・特徴	備考	互換性	嚥下障害 重症度 名称案	咀嚼障害 重症度 名称案
1	嚥下訓練ゼリー食	重度の症例に評価も含め訓練する段階 均一で、付着性・凝集性・硬さに配慮したゼリー 残留した場合にも吸引が容易なもの 少量をすくってそのまま丸のみ可能		嚥下食ピラミッドL0 特別用途食品Ⅰ	重度	重度
2	嚥下調整ゼリー食	付着性、凝集性、硬さに配慮したゼリー・プリン状のもの 口腔外でスプーンですくって食塊状にすることができる	肉・魚などのすり身のゼリーでも、軟らかさやなめらかさが適切ならここに入るものもある	嚥下食ピラミッドL1L2 特別用途食品Ⅱ	中等度	重度
3	嚥下調整ピューレ食	咀嚼は不要 ピューレ・ペースト・ムース・ミキサー食などのうち べたつかず、まとまりやすいもの。 粒状のものの混在した不均一なものでも、その粒が充分軟らかく、 また小さければ(飯粒半分程度)ここに含まれる。	ミキサー食のうち、管を通すことのできるようなもの、飲むことが主体になるようなサラサラの液体状のものはここに含まれない。ある程度形があり、スプーンで食べるものである。	嚥下食ピラミッドL3 特別用途食品Ⅲ UD定義の4(UD:ユニバーサルデザインフード)	軽度	重度
4	嚥下調整やわらか食	形があるが、歯がなくても押しつぶしが可能で、かつ食塊形成や移送が容易で、咽頭でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの 例)つなぎを加えてある柔らかいハンバーグの煮込み 大根や南瓜の軟らかい煮込みで汁にもとろみのついたもの 酵素処理した肉・魚・根菜など	2との違いは、2ではペーストをゲル化剤などで再形成したようなものが主となるが、4では自然な外観のものでかつ物性に配慮されたものが主となる。 いったんすりつぶしてから再形成したような市販介護食は物性によって2~4のいずれかに入る	嚥下食ピラミッドL4 高齢者ソフト食 UD定義の3	軽度	中等度
5	嚥下調整移行食	誤嚥と窒息のリスクを配慮して素材と調理方法を選んだ食事。 硬くない、バラけにくい、貼りつきにくいもの 箸で食べられるものも含む。 箸やスプーンで切れる・ナイフは不要	シチューなど、一般食でもここにはいるものもある 標準的要介護高齢者対応食	嚥下食ピラミッドL4 高齢者ソフト食 UD定義の1・2	軽度	軽度

キザミ食って



ナンセンス??

栄養補助食



その人に合った
形態のものを...

2010.1～2011.5 初回評価の結果 一嚙下グレードと実際の食事について検討一 (42名)

藤島の嚙下グレード	評価人数	実際の食事内容 (嚙下食ピラミッド)						
		L5	L4	L3	L2	L1	L0	未
10	0	0	0	0	0	0	0	0
9	2	1	1	0	0	0	0	0
8	13	11	2	0	0	0	0	0
7	8	4	4	0	0	0	0	0
6	10	1	9	0	0	0	0	0
5	1	1	0	0	0	0	0	0
4	2	0	2	0	0	0	0	0
3	3	0	2	0	0	0	1	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
1	3	0	0	0	0	0	1	2

2010.1～2011.5

初回評価の結果 一嚥下グレード、嚥下スクリーニングと実際の食事について検討ー(42名)

藤島の 嚥下グレード	評価 人数	反復唾液飲みテスト							実際の食事内容 (嚥下食ピラミッド)						
		6回	5回	4回	3回	2回	1回	0回	L5	L4	L3	L2	L1	L0	未
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	2	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
8	13	0	0	1	5	5	0	2	11	2	0	0	0	0	0
7	8	1	0	1	0	1	4	1	4	4	0	0	0	0	0
6	10	0	0	0	1	3	0	4	1	9	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0
3	3	0	0	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	1	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	2

ちょっとした工夫

誤嚥性肺炎を予防

「おいしく楽しい食事」



お手伝いができるとしたら…

「食事」



「生活の質」